



爆發ノ損害ニ對スル火災保險者ノ責任(2)

瀧谷, 善一

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 23(2):233-242

(Issue Date)

1917-08

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052747>



爆發ノ損害ニ對スル火災保險者ノ責任 (其二)

神戸高等商業學校教授

商學士 瀧谷善一

其三、火災ニ因ル爆發ノ損害

火災ニ因リ爆發ヲ生ジタル場合ノ爆發ノ損害ニ對スル火災保險者ノ責任ニツキテハ左ノ三ノ場合ニ別チテ考察スルヲ便トス。

(一)火災ト爆發トガ同一ノ建物内ニ起リ其建物又ハ其在中物ニ損害ヲ及ボシタル場合。

例ヘバ甲建物中ニ火災起リ其中ニ在ル火藥ノ爆發ニヨリ甲建物ヲ崩壞シタル場合ノ如キ是ナリ。カ、ル場合ニ於ケル外國ニ於ケル學說判例ハ二ニ分ル。(イ)特ニ約款ヲ以テ爆發ノ損害ヲ除外セザル場合ニハ保險者ハ火災ニ因ル爆發ノ損害ヲモ填補セザルベカラズトナスナリ。是レ多クノ國ノ法廷ニ於テ認メラレタル所ナリ。(註)(ロ)約款ヲ以テ特ニ爆發ノ損害ヲ除外シタル場合ニハ、英米ノ判例ハ或ハ保險者ハ爆發ノ損害ニツキ填補ノ責アリト爲シ又ハ其責ナシト爲シ、判例ガ統一セ

ザルモノ、如シ。(註二)

我約款ニハ明ニ爆發危險ヲ除外セザルヲ以テ異論ノ餘地少シ。余ハ火災ニ因ル爆發ノ損害ニツキテハ保險者ハ填補ノ責ニ任ズベキモノナリト解スルナリ反對論者ハ曰ハン。此場合ノ損害ハ爆發ノ損害ニシテ火災ノ損害ニ非ズ。火災ハ爆發ヲ惹起シタレド、損害ヲ惹起シタルハ爆發ノ作用ナリ。爆發ナカリシナラバ、損害ハ然ク大ナルベキ筈ナカリシナリ。故ニ單純ナル爆發ニツキ責任ヲ有セザル火災保險者ハ又此種ノ爆發ニツキテモ責任ヲ有セズト。然レドモ余ノ此說ヲ採ラズシテ、此場合ニ保險者ハ爆發ノ損害ニツキテモ填補ノ責アリト爲ス所以ハ(一)此場合ハ單純ナル爆發ノ場合ト異リ、爆發ハ火災ノ延焼中ノ出來事ナリ。例ヘバ火災ノ延焼中ニ材木小屋ニ火ガ移リ、若クハ硫黃ニ火ガ移リシニ異ナラズ。唯異ル所ハ普通ノ場合ニハ燃燒ガ緩漫ナレド火藥ノ場合ニハ燃燒ガ急激ナルノミ。何レノ場合ニモ始ヨリ終マデ燃燒物質ノ燃燒ニシテ、初メノ火災ガ何等獨立セル新シキ原因ノ介入ヲ待タズ、事物自然ノ結果トシテ爆發ヲ惹起セルモノナリ。換言スレバ火災ト損害トノ間ニ因果關係存在シ、火災ガ損害ノ有力ナル原因ナルヲ以テ爆發ノ損害ヲモ火災ニ因ル損害ナリトシテ保險者ガ填補スベキモノ也。(註三)(二)爆發ガ燃燒物ニ非

ザル場合、例へバ汽罐ノ破裂ノ場合ニモ、保險者ハツノ損害ヲ填補スベモノナリ。此場合ニハ汽罐ガ燃燒スルコトナシト雖、火災ト損害トガ因果關係ヲ有スルコトハ火藥ノ爆發ノ場合ニ同ジ。火災保險者ハ保險ノ目的ガ燃燒セザルモ、火災ニ伴フ必然ノ損害、例へバ火災ノ際生ズル家屋ノ倒壊、動産ノ破損ニツキテハ損害填補ノ責ニ任ズル以上ハ此火災ノ途中發生セル火災ノ當然ノ結果タル汽罐ノ破裂ニツキテモ責任ヲ有セザルベカラズ。(三)火藥、汽罐又ハ之レヲ納ムル建物ノ被保險者ハ此等ノ物ガ火災ノ爲メニ容易ニ爆發スルコトヲ知り、保險者モ亦コレヲ知リテ保險契約ヲ爲ス次第ナレバ、上記ノ如ク解スルモ當事者ノ意思ニ違背セズ、却テ之レニ合致スルモノナリ。(四)獨逸帝國裁判所モ亦此見解ヲ採ルモノ、如ク。(註四)米國大審院其他ノ法廷ニ於テハ二三ノ例外ヲ除キ、繰返シ此主義ヲ是認シ、同國ニ於テハ此解釋ハ明ニ決定セルモノト認メラル、ナリ。(註五)

カクノ如ク我國ニ於テハ保險者ハ火災ニ因ル爆發ノ損害ニツキテ填補ノ責ニ任ズベキモノナリ。然ルニ約款ハ汽罐、汽機、其他ノ機關ノ破裂、火藥ノ爆發ニ因ル火災ノ損害ニツキテハ保險者其責ニ任ゼズト規定セリ。(普通約款第十條第六號)此規定ハ單純ナル爆發ノ場合ニ適用セラル、ノミナラズ、火災ニ因ル爆發ノ場合ニモ適用セラル

ルモノナリ。何トナレバ元來此除外例ヲ設ケタルハ爆發ニ因リテ生ズル火災ノ損害ノ大ナルヲ慮リテ保險者ガ其責ヲ免レントスルモノナリ。然ルニ爆發ニ因ル火災ノ損害ノ大ナルコトハ單純ナル爆發ノ結果タルト火災ニ因ル爆發ノ結果タルトニ依リ差ナケレバナリ。故ニ我國約款ノ下ニ在リテハ汽罐、汽機、其他ノ機關ノ破裂、火藥ノ爆發ガ火災ニ因リ生ズルトキハ、其破裂又ハ爆發ニ因ル火災ノ損害ニツキテハ保險者ハ填補ノ責ニ任ゼズト雖モ、破裂又ハ爆發自體ノ損害ニツキテハ、前記ノ理由ニ依リ、保險者ハ填補ノ責ニ任ゼザルベカラズ。カクテハ保險者ノ責任過大ニシテ、單純ナル爆發ノ場合ト均衡ヲ失スルモ、約款ノ文言ノ不備上上述ノ如ク解スル外ナカルベシ。

(二) 建物内ノ火災ガ隣接建物内ニ爆發ヲ起シ、此建物又ハ其在中物ニ損害ヲ與ヘタル場合。

例ヘバ(イ)甲建物ニ火災起リ、之レガ延焼ニ因リ乙建物内ニ爆發ヲ惹起シ、乙建物又ハ其中ニ在ル物ニ損害ヲ與ヘタル場合、又ハ(ロ)甲建物内ニ火災起リ、其火熱ニ因リ隣接セル乙建物内ニ爆發ヲ惹起シ、乙建物又ハ其中ニ在ル物ニ損害ヲ與ヘタル場合、是レナリ。此二ノ場合ノ中(イ)ノ場合ハ結局一建物中ニ火災ト爆發トヲ生ジタ

ル次第ナルヲ以テ其責任ニツキテハ已ニ前項(一)ニ於テ述べタル所ナリ。(ロ)ノ場合ニ於テモ、余ハ(イ)ノ場合ト同ジク爆發ガ破裂タルト、爆發タルトヲ問ハズ、保險者ニ其損害填補ノ義務アリト思惟スルナリ。(註六)反對論者ハ曰ハン。此場合ニ於ケル爆發ハ直接ニ火災ニ因ルニ非ズシテ、火熱ニ因ルモノナリ。火熱ハ之レヲ火災ト認ムベカラザルヲ以テ、此火熱ニ因ル爆發ハ單純ナル爆發ナリ。從ツテカ、ル損害ニツキテハ保險者填補ノ責ニ任ゼザルベシト。然レドモ此場合ニ於ケル火熱ハ火災ノ作用ナリ。火災ガ隣家ニ延焼セザル火熱ニ因リテ隣家ノ障壁ニ損害ヲ與ヘタルトキハ、此隣家ノ火災保險者ハ此火熱ニ因ル損害ニツキテモ、火災ノ際ニ避クベカラザル必然ノ損害ナリトシテ填補ノ責ニ任ゼザルベカラズ。カ、ル場合ニ其隣家ノ建築ガ堅牢ナルトキハ、單ニ其障壁ニ變色、龜裂ヲ生ズルニ止マランモ、其隣家が藁葺ナルトキハ直ニ延焼シタリシナルベク、火藥又ハ汽罐ナリシガ故ニ爆發シタルモノニシテ、皆是レ火災ノ必然ノ結果ナリ。即チ火災ガ何等新ナル事故ノ介在ヲ待タズシテ、事物自然ノ狀態ノ下ニ當然爆發ヲ惹起シタルモノナレバ、火災ト損害トノ間ニ因果關係アリ、火災ガ損害ノ有力ナル原因ナルヲ以テ前項(一)ノ場合ト同様ニ解釋シ保險者ニ填補ノ責アリトナスベキナリ。之レヲ當事者ノ意思ヨリ論ズル

モ火藥、汽罐ガ隣家ノ火災ノ際、火熱ニ因ツテ爆發スル性質アルコトハ初メヨリ承知セル所ナリ。ソレガ爲メニ保險者ハ隣接建物ノ狀態ヲ考量シテ保險契約ヲ締結スベキヤ、否ヤ、又ハ幾何ノ保險料ヲ徴スベキヤヲ決定セルモノナレバ、上記ノ如ク解スルモ多クノ場合ニ於テ當事者ノ意思ニ反スルノ不都合ヲ生ズルコトナカルベキナリ。(註七)

(三)火災ニ因リ爆發ヲ惹起シ、爆發ノ起リシ建物ト離レタル建物又ハ其在中物ニ損害ヲ與ヘタル場合。

例ヘバ火災ニ因リテ甲建物内ニ爆發起リ、其結果保險ノ目的タル乙建物又ハ其中ニ在ル動産ニ損害ヲ與ヘタル場合ナリ。此場合モ細カクイフトキハ二ニ分ルベシ。(イ)第一ハ甲建物中ニ火災ノ爲メニ爆發起リ、其結果燃燒セル破片ガ乙建物ニ落チテ此ニ火災ヲ起シ、若クハ甲建物ノ爆發ノ爲メニ、乙建物中ニ在ル洋燈ガ顛倒シテ此ニ火災ヲ起シ、又ハ甲建物ノ爆發ノ爲メニ乙建物中ニ既ニ發生シ居タル火災ノ損害ヲ擴大セルガ如キ場合ナリ。(ロ)第二ハ甲建物中ニ火災ニ因リテ爆發起リ、其結果爆發物ノ破片ガ乙建物ニ破損ヲ及ボシ、(註八)若クハ爆發ノ結果空氣ノ動搖、地盤ノ震動ニ因リテ乙建物ヲ破壊シ。(註九)若クハ乙建物ニ震動ヲ與ヘタル結果、乙建

物中ニ新ナル爆發ヲ惹起シタルガ如キ場合是レナリ。(イ)ノ場合ニハ乙建物ニ實際上火災ガ存在スルモノナルヲ以テ其ノ損害ニツキテハ保險者ニ填補ノ責任アルコトハ已ニ述ベタル所ニ依リテ明ナリ。(註十)(ロ)ノ場合ニハ乙建物ニハ火災ヲ起サズ、單ニ爆發ノ結果トシテ損害ヲ惹起セルモノナルガ、此損害ヲ爆發ニ因ル損害ナリトシテ保險者ニ填補ノ責ナシトスルカ、又ハ其爆發ガ火災ニ因リ生ジタルガ故ニ、此損害ヲ火災ニ因ル損害ナリトシテ、保險者ニ填補ノ責アリトスルカ、多少ノ疑ナキニ非ザルベシ。然レドモ英米ノ多クノ判例ハカ、ル損害ハ火災保險者ノ責任ズベキモノニ非ズトイフニ一致セリ。(註十二)蓋シ此場合ニ於テハ乙建物ノ破壊又ハ在中物ノ損害ノ原因ハ大氣ノ動搖、地盤ノ震動等ニシテ火災ト直接ノ關係ナシ。勿論火災ガ爆發ヲ惹起シ、其結果トシテ大氣ノ動搖又ハ地盤ノ震動ヲ惹起シタル次第ナレド、損害ヲ生ゼシメタルハ火災ニ非ズ。即チ火災ハ間接ノ原因ニシテ大氣ノ動搖又ハ地盤ノ震動ガ直接ノ原因ナリ。後者ハ損害ノ原因ニシテ前者ハ其原因ノ原因ナリ。原因ヲ穿鑿シテ損害ノ歸着點ヲ定メンニハ際限ナカルベク從ツテ所謂直接原因ノ法則(Causa proxima non remota spectatur)ニ依リテ損害ノ原因ヲ定ムベシトイフナリ。(註十二)加之、火災保險者ノ意思ハ此ノ如キ爆發ニ因ル間接ノ

損害ヲ填補スルニ存セズ。保險契約者モ亦カ、ル損害ノ填補ヲ受クルコトヲ目的トスルニ非ザルヲ以テ、上記ノ如ク解スルハ當事者ノ意思ニ違背セザルノミナラズ、却テ之レニ合致スルモノナリ。(註十三)

此ノ如キ次第ナルヲ以テ、甲建物内ニ火災ニ因リテ爆發起リ、其結果乙建物ヲ崩壊シタル後、乙建物ガ火災ノ延焼ニ因リテ焼失セリトセバ、既ニ本論ニ於テ前ニ述べタルガ如ク、建物ノ崩壊ハ保險契約ノ効力ニ影響スルコトナケレドモ、乙建物ノ保險者ノ填補スベキ損害額ハ崩壊破損セル状態ニ在ル建物又ハ動産ノ價額ヲ標準トスベキモノナリ。(註十四)

(註一) *Briggs v. North American, etc., Insurance Co. (米)* [Bunyon p. 78 (c).] *Welford* p. 64. *May*, p. 653. *Hall* p. 104.

(註二) *Benshaw v. Missouri St. Mutual F. & M. Insurance Co. (米)* [Bunyon p. 78 (b).] *Transatlantic Fire Insurance Co. v. Dorsey (米)* (*May*, p. 916)ノ兩事件ニ於テハ爆發危險ヲ除外スルモノハ單純ナル爆發ヲ除外スルモノナリト爲シ、火災ニ因ル爆發ニシキテハ保險者ニ填補ノ責アリトセラル。反之、*Stanley v. Western Insurance Co. (英)* (*Bunyon* p. 84.) *American Steam Boiler Co. v. Chicago Singer (米)* (*Macgillivray* p. p. 985—6) 兩事件ニ於テハ當事者ガ明ニ爆發ヲ除外セル以上ハ其除外ニ重キヲ措キテ爆發ノ原因如何ヲ問ハズ、總テ之レガ爲メニ生ズル損害ニシキテ保險者ハ填補ノ責ニ任ゼズトセラレタリ。*Macgillivray* モ同様ノ意見ヲ有ス。(Macgillivray p. 666.)

(註三) *Scripture v. Mutual Insurance Co. (米)* (*Hall* p. p. 96—104.) *Caballero v. Home Mutual Insurance Co. (米)* (*Hall* p. 104.)

May, p. 653. *Welford* p. 64.

(註四) 水口吉藏氏、保險法論第五八二頁

(註五) *Richards*, p. 370.

(註六) Richards, p.p. 370—371. Mathews, Journal vol. 17, p. 331.

(註七) Waters v. Merchants Insurance Co. [Bunyon p. 78 (a).]

(註八) Hall p. 100.

(註九) Lottie Sleigh Case.—Janton v. Royal Insurance Co. (英) [Bunyon p.p. 79—81]. Erith Explosion Case.—Everett v.

London Assurance Co. (英) (Bunyon p.p. 81—84). Caballero v. Home Mutual Insurance Co. (米) (Hall p. 104).

(註十) Welford p. 64. Note (b).

(註十一) 註八及九參照。猶 May p. 947 ニ多クノ事件ヲ舉ゲアリ

(註十二) Joyce 2586. Bunyon p. 83. Welford p. 64 (3). Macgillivray p. 653.

前ニ火災ニ因ル爆發ノ損害ニ對スル保險者ノ責任ニツキテハ、爆發ガ火災ニ次イデ起リ爆發ガ保險ノ目的ニ損害ヲ與ヘタルニ拘ハラズ、其損害ヲ火災ニ因ル損害ナリトシテ保險者ニ填補ノ責アリトナシタリ。是レ一見直接原因ノ法則ヲ無視シ、損害ノ遠因ヲ以テ保險者ノ責任ヲ定ムルガ如ク考ヘラルベシ。然レドモ直接原因ノ法則ニ所謂(直接原因)(Causa proxima)トハ必シモ常ニ結果ニ最モ近キ原因ヲ謂フニ非ズ、結果ニ遠キモ、其原因ガ有力ニ働キ近因ガ遠キ原因ノ事物自然ノ結果ナルトキハ遠キ原因ヲ以テ Causa proxima ト看做サルベカラザルコトアルハ多クノ學者、法官ノ意見ノ一致スル所ナリ。故ニ火災ニ因ル爆發ノ損害ニツキ保險者ガ填補ノ責アリト爲スモ直接原則ノ法則ト撞着スルコトナク、却テ之レニ合致スルモノナリ。(本號四〇頁參照)

(註十三) Bunyon p. 83.

(註十四) 本論其二、爆發ニ因ル火災ノ損害ノ項參照

Miller v. London and Lancashire Fire Insurance Co. (米) (Hall p. 109).

其四、保險期間中ノ通知義務違反ニ因ル

保險者ノ責任免除

爆發ノ起リタル場合ニ其建物中ニ爆發性又ハ可燃性ノ危險物ノ存在ヲ證明シ

得ルコトアルベシ。カ、ル危險品ノ貯藏ニツキ保險契約者又ハ被保險者ガ保險者ニ遲滞ナク之レヲ通知シ、保險證券ニ承認ノ裏書ヲ受ケザリシトキハ（普通約款第九條第一項）保險者ガ此事實ヲ知リタル後遲滞ナク契約ノ解除ヲ爲サバリシ場合ヲ除キ（商法第四百十一條第三項）保險契約ハカ、ル危險品ノ貯藏ノ時ヨリ其効力ヲ失フモノニシテ、保險者ハ其以後ニ生ジタル爆發ノ損害ハ勿論、火災ノ損害ニツキテモ填補ノ責ニ任ゼザルモノナリ。（普通約款第十條第一項）此點ニツキテハ猶、細論ヲ要スベキコトアレド、本論ノ範圍ヲ脱スベキヲ慮リ今ハ細說セズ。（註一）

以上ハ我國現行商法ノ規定并ニ我國火災保險會社ノ多ク使用スル普通約款ニ基キテ立論セルモノナリ。是ニ依リテ、我國火災保險會社ノ用フル普通約款ノ不備又ハ疑問ノ點ハ明トナレリ。若シ夫レ爆發又ハ危險増加ニ對スル約款改正問題ニ至リテハ自ラ別問題ニ屬シ更ニ詳細ニ論究ヲ更テザルベカラザルベシ。（完）

（註一） 本論其二、單純ナル爆發ニ因ル火災ノ損害ノ末項參照

（大正六年六月一日脱稿）